

臂曲地区岩石採取事業説明会（事業者主催）会議録 （遊佐町作成）

日 時 令和 7 年 4 月 18 日（金）19:00～20:09
場 所 遊佐町生涯学習センター 2 階 大会議室
参加者 名簿記載参加者：66 名

1 事前協議者による事業説明

① 採石場水文調査（秋田大学）説明

弊社で、秋田大学に依頼している調査結果が出ているので、結果報告をする。

弊社は、平成 22 年 5 月から秋田大学に採石場、白井簡易水道水源、胴腹滝の水質や水量調査をお願いし、現在も継続して調査を行っている。

また、令和 2 年 9 月から令和 6 年 9 月まで、ボーリング調査を長期的に行い、地下水脈や地下水の流れ方向、調査結果を得ることができた。

② ボーリング調査について説明

秋田大学の分析と考察について、水位は 4 年にわたり、ほぼ同調して変化しており、標高 319 メートルを超えないことがわかった。地下水の流れの方向は採石場の北東から南西の方向に流れていることがわかった。

秋田大学の見解では、十分な長期的な安全性を考慮しても、標高 329 メートルまでなら、地下水は流出することなく、地下水への影響を及ぼさず、掘削が可能と考えられるという結果が得られた。

③ 事前協議書について説明

標高で一番高いところが、国有林のこの辺で 390m。そしてここまでは取りたいというところが 360m。30m ほど下げたい。そうすれば、大学の先生の見解が 319m なので、余裕があるわけではないが、地下水に対しては大丈夫と計画した。

2 質疑応答 ○質問者 ●回答者（事業者）

○ボーリング調査の結果は町へは出しているか

●出している

○ボーリング調査の結果地下水には影響がないという判断か

●影響ないと考えている

○319m に地下水があるというが、帯水層からは本当に漏れていないのか。昨年の大雨で採石場から大変水が出ている。掘ると弱くなるのではないかと懸念している。沈澱池についてはまた設けるか。

●ボーリング調査の位置決めは町と協議した。帯水層はボーリング調査の結果地下水の通り道は 319m より上だと認識している。水貯めは、事業が認められるかわからないので当分の間は前と同じ場所で処理したい。

○320m より上部からは水が出ないのか。

●ボーリング調査（Bor.4）の標高が 360m から掘り始めて 319m まで掘り下げた、ここからの湧水は確認できていない、帯水層の高さとしては 319m という結果。

○以前は 320m あたりから水が出ていると町からも指摘あったが。

●今回の結果も前回湧水が出た結果と合っている。これ以下は危険と秋田大学からも言われて事業を計画した。

○町民、水を汲みに来ている酒田市民など多くの人の心を踏みにじろうとしていると思う。最高裁の判決をどう思っているか。町の条例が違憲ではないとお墨付きを与えた。条例に違反する計画はおかしい。

水脈は科学的に証明できない。ボーリング調査何ヶ所やったのか。例えば 50cm ごとに面にして、ボーリング調査して、そこでなかったら初めて水脈がないとなる。町内の 500 軒の農家が 10 万表の米を作っている。米は水そのもの。水がおかしくなれば、米、岩牡蠣、全部おかしくなる。災害が起きてから止めても駄目だから条例を予防としてやっている。

今後、水循環保全審議会で協議されると思うが、絶対私は承認していけないと考える。ぜひ皆さんの意見も出してほしい。

●貴重なご意見としていただく。

○鳥海山を中心に秋田県もだが、鳥海山飛島ジオパークに指定されている。どう思っているか。景観が崩れたらどうするのか。観光客も他から来ている。自然を崩してはいけないと思う。70 年生きてきて、山をあちこち掘られたら困る。そういったことは考えていないのか。鳥海山の腹のあたりを掘ってどうかと思う。

●最初に申し上げたが、事業の概要についての質問でお願いしたい。貴重なご意見としていただく。

○ボーリング調査は跡地の部分で、かつて岩盤があって湧水が噴出した。今回はボーリング調査を専門業者に頼み、掘って土の中がどういった構造になっているか調べたと思うが、本当に水を通す層がなかったのか。水を通しやすい層もあったのではないか。全然それは考慮せずに、全部ボーリングで、確認したのでは。

下に貯まった水の水位を調べたと思うが、掘り方を詳しく説明していただきたい。

●調査の仕方の詳しい説明となると私たちでは答えられない。

遊佐町に出している秋田大学の調査報告書を開示してもらい見てもらえれば詳しい内容が記載されている。

○ボーリング調査の3カ所は掘った跡地で4つ目は法面の上。ここでボーリングしてその下にどのぐらいの深さまで水が来ているかを調べたという認識。

かつて湧水が噴出した際に「仮に地下水脈を損傷したとしても、当該箇所を埋め戻すことにより、水は低地に流れ、生活用水を含む水資源の確保を図ることができることから、回復不可能な事態は生じない」と御社では言っていたが、かなりの期間、水は出続けて今は少なくなっている。地下水をどう捉えているのか。地面の下を小川のように流れていると捉えているか。地下の水の通り道は一定の道が決まっているのではなく、周りの影響を受ける。だからその大量の水が噴き出したときも埋め戻せば、元と同じようにまた地下に潜って行って、下の方にも流れるということはある。

その時に噴き出したのは、標高差で圧力のかかった被圧地下水なので、その途中に穴が空いたら一気に吹き出し、上の方の水が一気に抜けた状態となっている。今までみたいに上に水がたまった状態でない。一方下の方も穴を開けたことで水が動いて最後は抜けきって空っぽになるというのが前回採石した時の大量の湧水が一気に噴き出したのと、そのあとの経過だと思う。

地下水の涵養は、土、植物が生えていることでスポンジのように雨水をためて少しずつしみこむこと。大雨だと表面を流れて林道へ流れ、少ない雨ではむき出し状態では蒸発するので、今の状態は新たに地下水を増やすことに何も貢献しない。

ボーリング調査箇所がすぐ崖の側、上部側の湿地から涵養されていたが、崖になっていると水は流れやすい方へ一気に流れてなくなっているため、わずかでも流れていても切り土していると貯まらない。

そのため、跡地の隣接地は水が抜けている状態と考えられる。また今回のボーリング調査では途中で水を通る層がないのかを調べていない。今回の調査は盆地での水位調査のやり方。

鳥海山の斜面を流れ下る火山性湧水は常に流動している。途中で穴あけて空気が入ると一気に流れ落ち水が逃げる。水が通らない場所がどんどん増えていく。

今放置されているから山側が全部影響受けていると考えられる。水が抜けてしまっている状態を作ってから水はないと調査するのはおかしい。現場でも湿地から滝になって流れ出ている水を観測している。

意義がある調査となっているか、見解を。

●調査内容に関しては答えられないので、持ち帰って社内、秋田大学の先生方と相談する。皆様の意見は聞いているが、説明会の内容としては、事業の内容についての質問だけとさせていただきます。

○普通説明会がある場合資料を出すのではないか。次回こういった機会がある場合は前もって資料を出してもらいたい。掘った後の法面、敷地の緑化はどういった対策をしているか。景観が非常にめぐさい。現在進行形の計画、今後の計画を具体的に出して欲しい。

●今この場では回答できない。

○前、専務さんが杉の木を植えると聞いていたが、社内でどうなっているか。

●跡地に関しては県、町と何度か現場で協議をしている。

○持ち帰って当時の専務の説明を確認してほしい。

●わかった。

○資料がなく、後方からはスライドが見えないため初めて来た人は内容を把握できないのではないか。これまでの採石の経過からすると採石時のダンプの通行（回数、ルート）、掘削量、期間についても、採石予定地より上部は御社の土地かと思うが、仮に認められる場合今後の見込みは。誠意のある回答をお願いします。

●ダンプの回数、ルートは申請を出した段階で町県と調整していく予定。掘削量はまだ平面の計画なので申請に当たって県の指導を含め計画していく。今後の事業展開は回答できないので持ち帰る。

○内容がわからないので回答できないということが多い。事前に前掘削した部分について質問が出ることは想定していないのか。跡地に土砂を埋め立て、緑化も進んでいない。前回埋め立てたものが地下浸透してどう悪さしているかわからない。緑化も協議中。それでは申請する資格がないのではないかと思う。

地下水が出るかのボーリング調査でなく、地質調査して地下水脈を調べないといけない。
前の事業では地下水脈を寸断した。これからの事業で水脈を寸断しないという保証はない。
災害が発生してからでは遅い。補償できないだろう。補償してでも事業をする姿勢が必要ではないか。

前回のことを全て解決させてから次に向かうのが企業としての姿勢ではないか。社長さんも来て経過やこれからの形を説明してから事業を進めていく。前の部分が全て解決してから事業に向かう。これが遊佐町の町民の一員としての要望。

前の部分で公害が発生するかもしれない。採石場西側には簡易水道の水源もある。埋め立ての影響で何か地下水に不純物が出るかもしれない可能性はある。

解決もしないで次の所をやるのは虫の良い話ではないか、前回部分を全て解決してから事業を進めてもらえるよう要望する。

○多くの町民が集まるのは想定でき、様々な意見が出ることも考えられる。こういった説明会を開くにおいて、説明できない・答えられないのは問題。何のために集まっているか。

非常に大事な質問が出ているので誠意のある対応をすべき。ボーリング調査の内容は重要なので、この場で説明すべきだと考える。しっかりと説明会に臨んでいただきたい。

ボーリング調査は秋田大学に委託しているとのことだが、正当性についても別の機関に調査しているのか慎重に結果を出す必要がある。秋田大学の見解があるから正しいというのは正当性に欠ける。町にどのような影響を与えるか考えてほしい。事業を行う上での課題について回答いただきたい。採石跡地での緑化について進まないのはどうしてか。植栽行為はしているが根付かない。結果的に町民が望むのは元に戻してほしい。次の事業でも同じことでは困る。

○植林をする場合は地質調査、土壌調査が必要。懸念のとおり根付かない。緑化の約束は守ってもらいたい。

○今日の説明で持ち帰って回答するものは、どのような形でいつまで回答いただけるか。
町と県と相談してという回答で御社の方針はないのか。今までの経緯を踏まえて新しい事業をやろうとしている。それに対して相談して、持ち帰ってという回答ばかり。何のために集まったのか。感情的なもので言えば、次の世代にきれいな水、山を残したい。御社ではこの事業に関して何も回答が出てこない。何を説明したいのか。

大学で調査したから大丈夫では納得できないし説明できていない。会社の中で確信ないのに大丈夫の一言で遊佐町民に丸投げするのか。秋田でやったら秋田の人はそれで納得してくれるのか。

●回答は町企画課に出す。内容によっては大学へも確認することがあるが、できる限り早めに出す。具体的な日は回答できない。

○回答が出るまでは絶対事業はスタートしないのか。

●しない。今日の事業計画説明会は、法律に則ってやっている。

○今の質問を検討して報告いただけると認識した。土砂の戻し方も報告してほしい。

○平面図上での掘削量は計算上出ていることから、実際取るかはにおいて 320m までの掘削量の概略を m^3 で教えてほしい。岩石を取ると窪地が出来、雨が降った時は流出係数が非常に高くなって雨がほとんどしみこまないことになる。

昨年の豪雨 (300mm) のようなことが頻繁に出てくる時に、ここから出る洪水の最大量は計算がずれてくる。これに対してどんな対応をできるか。災害リスクにどう答えるか。計画値で教えてほしい。豪雨も連続して起こっている。1 回だけの降雨でなく含めて計算してほしい。新しい事業場所は跡地とつながっている。今の跡地にプラスして複合的な見方で計算して、今までとこれから分けて計算してほしい。

跡地の方については、もう何十年もこのままにしておくと、これから何十年もまた先までその影響が残るから、法律の民事上の問題でなく、復元に対する責任がある。

搬出ルートに変わらないのか。行き先はどの港か。今までと同じかどうかかわかるとわかりやすい。岩石の用途や消費地を知りたい。

○川越工業の事業に対する気持ちを教えてほしい。町と川越工業の目的が一致すればいいと思うが。

●臂曲地区の事業計画エリアは弊社の土地。採石業を営んでいるので、所有地で採石して事業をしたいと考えている。

○納得する部分が見つからなかった時にどう進んでいくのかわからなかった。納得できるものが見つかるといいと思う。

●説明会を終わらせていただく。回答については、遊佐町に早急に出したいと思う。